

令和3年6月30日掲載

雲南市加茂町出身のラトレッジ(旧姓・青木)麻由子さん(49) 東京在住と、友人で米国人のアリ・ビューフォードさん (44) 同氏が共同事業者となり、島根県奥出雲町の「雲州忠善

刃物」の包丁を外国人向けに販売している。職人が手掛ける包丁は評価が高く、2人は「たたら製鉄を背景にした島根の名品を多くの人に知ってほしい」と売り込んでいる。(白築昂)

雲州忠善刃物

奥出雲産の包丁 外国人向け販売



Jikuuで扱う雲州忠善刃物の包丁

東京の雲南出身女性と友人



アリ・ビューフォードさん(左) とラトレッジ麻由子さん

職人手作り、切れ味評判

たたら製鉄が盛んだった奥出雲町では、鉄を使った農具や刃物が生産されてきた。忠善刃物は明治期に操業を始め、

判が広がった。語で記したカードを添えた。1万数千円程度に価格設定し、アメリカを中心に購入者の9割は外国人という。

2人は川島さんの包丁を「Jikuu(時空)」として取り扱いを始め、外資系企業の駐在員や大使館関係者らに「職人が手作りにしている」「島根はたらの文化が根付いている」とPR。□□で評

「ふるさと伝統工芸品」の4種をそろえ、柄を新潟県の業者に別注し、島久忠さん(83)が作って包装箱に手入れ方法を英

米国の留学、就職を経て米国人と結婚したラトリッジさんは、都内で子育てをしながら島根に開く。Jikuuを通じ奥の立ち上げは2017年夏。アリさんら友人家族と島根を旅行した際、外国人が忠善刃物の包丁の切れ味や軽さに驚く様子を目にしたことがきっかけだった。世界に向けて魅力を発信する2人に、忠善刃物の川島宣江さん(62)は「誠心誠意取り扱って

Jikuuのホームページアドレスは、<https://jikuujapan.com>